

年表

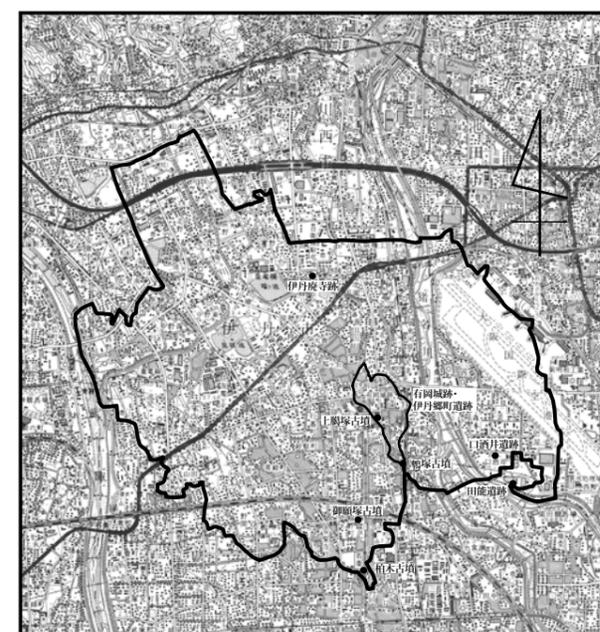
天文18年	1549	三好長慶が包囲攻撃、伊丹親興の善戦により伊丹城落ちず。(『細川両家記』)
天文19年	1550	伊丹親興と三好長慶、尼崎本興寺で和談。長慶、伊丹城包囲を解く(『細川両家記』)
永禄11年	1568	織田信長が足利義昭を奉じて入京、伊丹親興・和田惟政・池田勝正を摂津三守護とする。(『細川両家記』)
天正元年	1573	信長が義昭を追放し、室町幕府滅びる。村重はこの時の忠節を賞され、「摂津国守」となる。(『陰徳太平記』)
天正2年	1574	村重が伊丹氏を破って伊丹城に入城する。(『年代記抄節』) 城名を有岡城と改名し、城の改修に着手する。
天正5年	1577	ポルトガル人の宣教師ルイス・フロイスが有岡城を訪れ、「壮大にして見事なる城」と賞賛する。(『耶穌会士日本通信』)
天正6年	1578	村重が信長に背き、有岡城に籠城する。信長は松井友閑・惟任光秀・万見重元・羽柴秀吉らを有岡城に派遣したが、慰留に失敗する。(『信長記』) 小寺職隆が、小寺孝高(官兵衛)を村重説得のため有岡城に遣わすが、村重により城内に幽閉される。(『黒田家譜』)
天正7年	1579	村重が有岡城から脱出し、尼崎城に入城する。後に花熊城へ移る。(『信長記』) 有岡城が落城し、孝高(官兵衛)は家臣栗山善介により牢から助け出される。(『黒田家譜』) 村重の妻子ら約700人が京都や尼崎七ツ松で処刑される。(『信長記』)
天正8年	1580	荒木一族の退城後は、有岡城から伊丹城に名が戻る。信長により摂津国支配を任された池田信輝の嫡子之助が伊丹城城主となる。(『池田家略記』)
天正11年	1583	池田信輝父子は摂津より美濃に転封され、伊丹城は廃城となる。(『寛永諸家系図伝』)
天正17年	1589	秀吉が有馬温泉入湯の途中、魚屋町岡田次郎左衛門の家に宿泊する。(『伊丹駅所出入書上』)
文禄年間	1592~96	伊丹村の町場が15の町で形成される。(『文禄伊丹之図』)
元和3年	1617	伊丹村が宿駅に指定される。(『伊丹駅所出入書上』)
寛文元年	1661	伊丹郷町のうち、11村が近衛家領となる(『伊丹郷町明細帳』)
延宝3年	1675	伊丹6ヵ村、柳沢吉保の領地になる。
元禄元年	1688	井筒町から出火、160軒が消失する。
元禄10年	1697	酒造株元禄調高の確定。
元禄12年	1699	天王町から出火、酒家16軒が消失し、飛火により、下市場村焼亡。
元禄15年	1702	中少路村から北之口町の間で出火、定火消が設置される。
正徳元年	1711	北少路村など12の村が近衛家領となる。
享保元~21年	1716~1736	伊丹村、27の町となる
享保7年	1722	勸進相撲・芝居・狂言等が行なわれる。
享保14年	1729	北少路村付近から出火、80軒消失する。
宝暦4年	1754	元禄調高まで勝手造り。伊丹酒、元禄元年からこのころにかけて、第一盛期を迎える。
天明4年	1784	猪名川通航が許される。
天明5年	1785	雲正坂下に船着場が造られ、酒荷物が運搬される。
寛政10年	1798	『日本山海名産図会』の巻頭に伊丹酒が記載される。
文化3年	1806	酒造の「勝手造り」令が出される。このころ伊丹酒、第二盛期を迎える。
文化5年	1808	伊能忠敬が伊丹村付近の測量を行う。
天保2年	1831	お蔭踊りが禁止される。
天保4年	1833	大塩平八郎が「大学」を講義する。
天保10年	1839	郷校「明倫堂」が開校する。
弘化4年	1847	酒造家が没落し始める。
安政2年	1855	伊丹の大工組が京都御所の造営に関わる。

有岡城跡・伊丹郷町遺跡 第368次調査

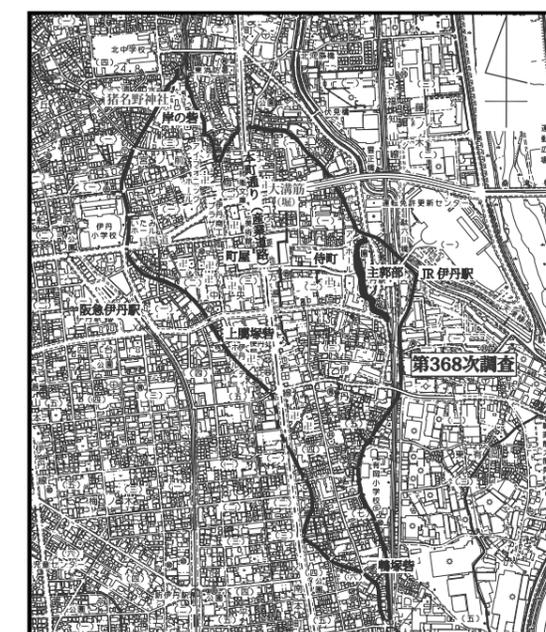
遺跡の概要

兵庫県伊丹市の南東部に位置する有岡城跡・伊丹郷町遺跡からは、古くは弥生から古墳時代の遺構も発見されていますが、主たる時代は鎌倉時代末期～江戸時代です。在地武士の伊丹氏が「伊丹城」を構えたのが始まりです。1574(天正2)年に織田信長の家臣の荒木村重によって、伊丹城は攻められ、伊丹氏は追われます。入城した村重は伊丹城を「有岡城」と改め、城と町を土塁と堀で取り囲んだ「惣構」の城に改造します。1577(天正5)年に有岡城を訪れたポルトガル人の宣教師ルイス・フロイスは「壮大にして見事なる城」と賞賛しています。しかし、村重の有岡城時代は長く続かず、1578(天正6)年、信長に反旗を翻し、1年近く籠城しますが、1579(天正7)年に落城します。

その後、1583(天正11)年に廃城となり、残された城下町は江戸時代以降、酒造業を中心とした在郷町として発展します。伊丹の酒造業は江戸積みで、江戸では「丹釀」と称されて大流行します。その盛期は17世紀後期から18世紀初期(元禄年間から享保年間)、19世紀前期(文化年間から文政年間)に迎えました。



第1図 遺跡位置図(1/100,000 「大阪西北部」)平成14年



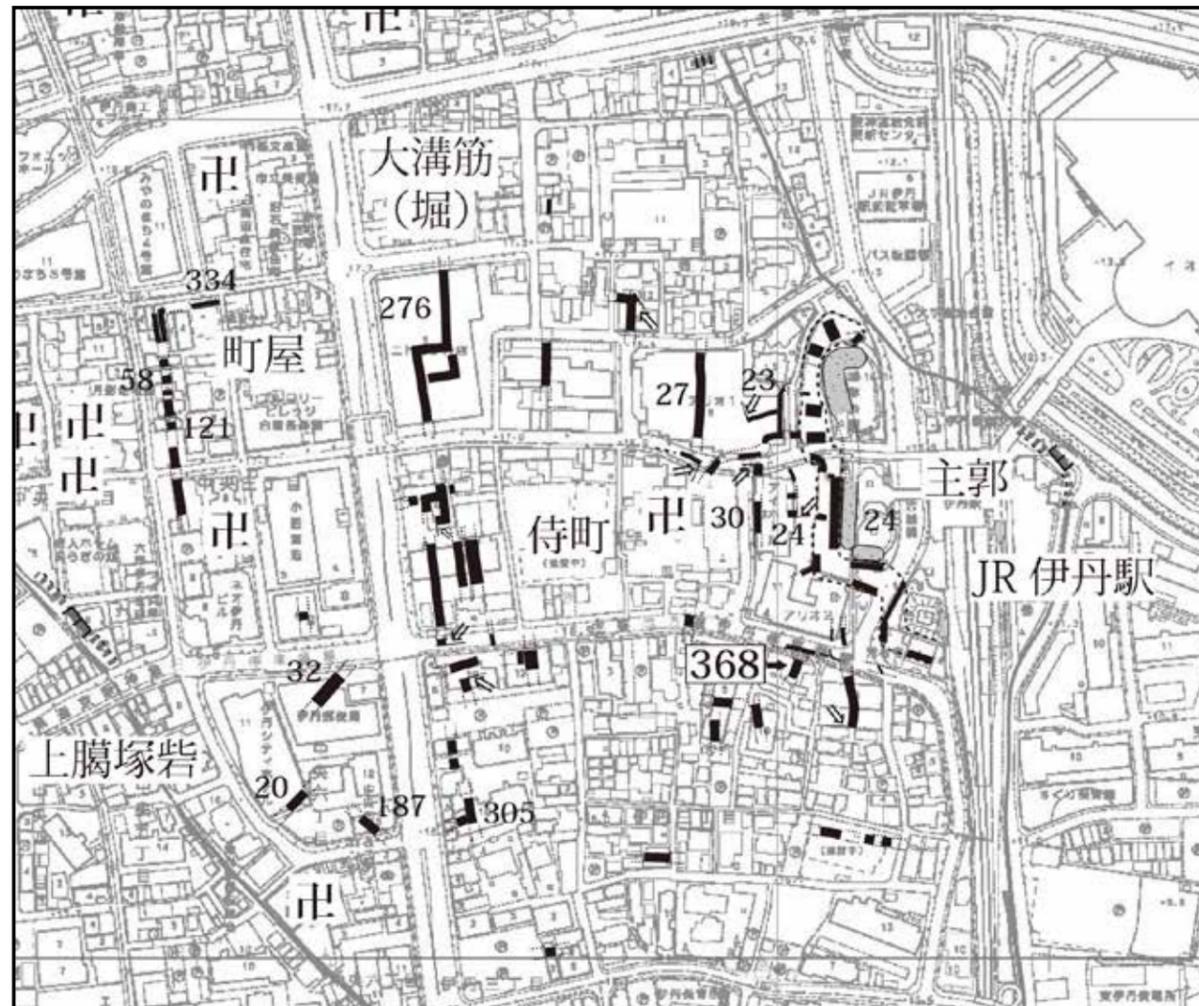
第2図 有岡城跡・伊丹郷町遺跡の調査地点位置図(1/20,000)

伊丹市教育委員会事務局 生涯学習部 社会教育課
〒664-8503 伊丹市千僧1丁目1 Tel 072-784-8090
ed-syakai@city.itami.lg.jp

調査成果

第368次調査地点は、有岡城の「侍町」に位置し、その中でも主郭に近く、北側は大手筋に面する重要な地点です。周辺の調査では、有岡城に関する堀跡や屋敷跡が発見されています。今回の調査により、有岡城に関する堀跡を発見しました。堀は南北に延び、検出長（南北）約13m、幅3.2m、深さ約1.4mを測り、南北共に調査区外へ続きます。北側の道路（県道伊丹停車場線）の発掘調査で、同時期の堀跡を検出していますが方向が異なります。また、近接の調査地点においても南北に延びる堀が多く検出していることから、主郭南側の防御機能を考える上で、大きな発見となりました。

伊丹郷町時代の発見として、礎石建物や水琴窟など多数の遺構を検出しました。そのなかで「焼継ぎ」痕がみられる碗や皿が出土しました。「焼継ぎ」とは、割れた碗や皿を接合する技法で、それを専門に扱う職人が居たことが絵図資料などでわかっています。その方法は、ガラスとフノリを混ぜた釉薬を低温で焼いて接合します。今回、出土した碗や皿をみると、接合部にズレがあるものが多いことから失敗品を廃棄したと思われます。



第3図 第368次調査地点周辺堀検出図



写真1 堀01(南より)



焼継師

第4図 『図説 江戸考古学研究事典』より